

平成26年度第4回 区政モニター会議 会議録（要旨）

平成26年11月27日（木）
（夜の部）午後6時30分～午後8時30分
区役所 8階第一会議室

- 1 広報課長あいさつ
- 2 文化・生涯学習課長あいさつ
- 3 事業説明
- 4 事例検討 「生涯学習」
 - (1) 「中央区民カレッジ」について
 - (2) 家庭教育支援の推進について

1 「中央区民カレッジ」について

皆様の生涯学習を実現・推進する場として「中央区民カレッジ」を開講していますが、このカレッジをより充実させるため、皆様のご意見をいただきたいと思っております。例えば、このような講座があれば、ぜひ参加したい、あるいは参加者が増えるのではないかとといったご意見・アイデアがあれば、お聞かせください。

質問 朝日新聞関係の講師が多いのは、やはり本社が区内にあるからか。
文化・生涯学習課長（以下、課長） はい。区内の民間事業者との連携という位置づけである。同じく、区内に事務所や発祥地を有する大学との連携を推進している。

質問 区民カレッジを単位制にした理由は。また単位制によって、利用者にとって、どのような利便性が上がったのか。

課長 カレッジ＝大学という位置づけにしたので、単位制とした。単位制にすることで、受講者は体系的に知識を身につけられるようになったと思う。

質問 区民カレッジの対象者は18歳以上とあり、開講時間が平日14時となっている講座が多い。これは主に退職者を想定してのものか。

課長 生涯学習ということで、高卒年齢である18歳以上を対象とした。また時間設定も、必ずしも平日14時からの開講だけではなく、さまざまな時間設定をしているし、日曜・休日開講の講座も多い。これは幅広い世代の人に受講していただけるようにするため。

質問 一般公募枠の設定基準は。また既存の公募枠を広げる予定はあるか。

課長 趣味の講座、大学や民間事業者との連携講座、これら人気のある講座には一般公募枠を設定している。公募枠は現行のものでも十分広くとっていると思う。またカレッジ生には2つの講座まで優先的にとれるようにしている。

意見 一般募集があることはもっとPRしていただきたい。

- 課長 現在も一般募集の開始については、広報紙やホームページにタイムリーに掲載しているが、今後も努力したい。
- 意見 3年前に初めて区民カレッジに通ったが、とてもいい印象を持った。あったらいいなと思う講座として、歌舞伎座や百貨店のバックヤードツアー、画廊めぐりなど、中央区ならではものを挙げたい。
- 意見 人気が薄く、定員割れを起こしている講座は思い切って無料にするか、あるいは少額にして受講者を募れば、区民カレッジの存在を知る人がもう少し増えるのではないかと思う。
- 意見 区政を勉強する講座があってもいい。そこには講師として区の幹部や職員が出てきて、区民と直接会話すれば、区民と行政当局とのコミュニケーションも図られ、よりよい区政ができると思う。
- 意見 趣味の講座については、生涯学習講座として単発的に行うものと区民カレッジで行うものとの棲み分けがはっきりしない。また夜間講座には趣味の講座のものが多く、若い人が勉強できる講座を増やしてはどうか。
- 意見 夜間講座は現在49講座のうち8講座しかないが、若い受講生を増やすためには、これをもっと増やせばいい。
- 意見 高校を中退したり、大学に進学できなかった方には、大人になってから後悔して、勉強意欲が盛んな人が多い。こういう方々のための講座があってもいい。更に言えば、できれば区民カレッジで受講すれば高卒の認定をとれるようになればいいかなと思う。法律的に難しいだろうが。
- 意見 現在、区が抱えている問題として待機児童をはじめとする保育に関する問題がある。この問題解決の一助として、区民カレッジで保育士の資格をとれるような講座があればいいなと思う。
- 意見 講座の体系的構造(どの講座がどの講座の入門編に当たるか等)、それに伴う優先枠制度など、区民カレッジの仕組みが少しわかりにくい。
- 意見 区民カレッジの入学時期が年1回となっていて、一度、入学機会を失すると1年間待たなければいけない。これはとても不便なので、昨今、多くの大学が採用を検討している春・秋2回の入学時期を設定していただきたい。
- 課長 通年で講座を開講していること、及び、それら講座の中には間隔をあけて開講しているものもあり、年複数回の入学では全回を受講することができなくなる恐れがある。そのため、体系的に知識を身につけることを目的としている区民カレッジでは、やはり4月入学にこだわっていきたいと考えている。
- 意見 区民カレッジで行われている、例えば「傾聴」「読み聞かせ」の講座で教える内容は、福祉の現場で行われているそれらと微妙に違う。これは区役所内で調整の上でこうなっているのかもしれないが、受講者が受講後、福祉の現場で活躍できるような調整も必要ではないか。
- 課長 例えば区民カレッジの受講者が卒業後、区内の図書館で読み聞かせサポーターとして活躍できるように調整している。また文化財サポーターも、もと

もとは区民カレッジの養成講座から始まったが、それが現在は発展して、卒業生がみずから協会を立ち上げ、まち歩きガイドとして活躍されている。このように卒業生が活躍の場を広げるには、みずからの努力によるところもあるのではないかと思う。ただ、確かに社会福祉協議会が主催する講座と区民カレッジの講座で一部重複しているものもあるので、これは今後、調整していきたい。

2 家庭教育支援の推進について

ここ10年ばかり、家庭の教育力の低下が指摘されてきて、現在、その対応がますます重要となっています。区では平成16年度に地域家庭教育推進協議会を設置し、家庭教育支援事業を展開してきました。核家族化の進展や地域社会での人々の交流が希薄化していく中で、子育て家庭を地域で支援し、また子どもたちの健全育成を地域で推進していくために、更に必要と思われることや、区の取り組み状況について、ご意見をいただきたいと思えます。

意見 区民カレッジで、家庭教育支援に関連する講座を開けば、区民の関心も向くのではないかと思う。

意見 小学生を対象としたプレディがあるなら、保育児童を対象としたミニプレディもあってもいいのではないか。

意見 プレディの現場を一度訪れたが、そこでは自由に子どもたちが遊んでいるだけで、付き添いの大人たちは、何も礼儀作法を教えていない。これはもったいないなと思った。

意見 地域で支援と大上段に振りかぶっても、それは難しいし、あまり効果は期待できない。それよりももう少し地道に、例えば男親の家事・育児への参加を促す環境づくりだとか、協議会主催で行われる講座・講演会のフォローアップ体制の整備等から始めたほうがいい。

意見 中央区に住んでいる人たちは、地域での交流の希薄化を心配するよりも、利便性や安心安全といった、もっと多くのメリットを感じている人が多いので、地域で支援という方法論にどの程度効果があるかは疑問。

意見 地域でのつながりができるためには、どうしても時間が必要だ。しかし、中央区の場合、住人の出入りが激しく、なかなかその時間が持てないのが現実ではないか。

意見 確かに地域の力は防災では非常に必要だが、こと各家庭の教育問題に関しては必要なかなと疑問に思う。家庭ごとに教育に対する考え方・方針があるはずだから、それに行政が画一的に対応するのは無理。行政が対応すべきは、そのような多種多様な各家庭の方針やニーズに対応できる仕組みづくりではないかと思う。

意見　　そもそも育児をしている親たちが、隣近所の人たちのことを知らないから困っているということがあるだろうか。特に母親たちを見ていると、彼女たちは、いつの間にか、同世代の人たちを中心にネットワークをつくっていて、核家族化で困っているようには、とても見えないのだが。

課長　　地域から孤立して、周りの人たちに育児に関する悩みを言えないで困っている親は確かにいると思う。そういう親たちに、どういう救いの手を差し伸べられるか、その仕組みを考えていきたい。また文科省の調査では、親力が低下しているとの結果が出ている。家庭でのしつけがうまくできていない中、昔は近所の大人が子どもを叱ったりして、みんなで育てているという意識があったが、今、そういうことをやると、余計なお世話と言われかねない。そういう問題を、どうやって解決すべきかを皆さんにも考えていただきたい。

広報課長　　家庭教育支援は、身の回りで起きた問題をきっかけに区民の皆様が自主的に取り組んでいただいて解決できることが一番いい。ただ、日常業務で区民の皆様からの投書を拝見していると、確かに親力は低下しているなど実感することもある。また防災の面で、いざ災害時に地域の力を発揮するためには、やはり日常から地域内コミュニケーションをとっていることが必要だ。そういう日常の地域内コミュニケーションが、地域で家庭教育支援を推進する力にもなると思う。

意見　　両課長がおっしゃることも理解できるが、例えば現状、地域の防災訓練に出てくる人は少ないが、いざ災害時には、多くの人々は隣近所の人を助けるため協力し合うだろう。コミュニティができないからだめだとばかり、いつまでも言っていては、行政は何もできなくなってしまうのではないか。

意見　　もし行政で何もできないのであれば、民間企業を巻き込んで解決策を考えていくことも1つの方法だ。

意見　　家庭教育を地域で、具体的には町会や民生委員、青少年対策委員等を通じて支援するよりも、民間の優秀な企業・人材に任せたほうが効率的で有効な支援ができるのではないかと思う。

課長　　家庭教育支援として、地域家庭教育推進協議会やPTA主催で、いろいろな家庭教育学習会やイベントを行っているが、本当にそこに来ていただきたい方々が、仕事がお忙しい等の理由で、なかなか参加できないのが実情。そこで、何か参加を促す、よい方策など、お知恵をいただきたい。

意見　　本当に悩んでいる人は、そのようなイベントに参加しようという心情ではないのかもしれない。最近では、悩みがあったら、まずネットで検索するという世代が増えてきたから、インターネットを利用した相談受付も検討してはどうか。

課長　　子育てに関する相談は、家庭支援センター、教育センターで受け付けているが、ネットでの対応はなかなか難しい。

広報課長　　「きらら中央」で電話相談を受け付けている。

意見 課長ご指摘の学習会・イベントの過去のテーマを拝見すると、中1プロブレムのような学校教育に関連する問題が多いように見受けられる。だとすると、学校現場から切り離して、家庭や地域の問題ととらえるのはおかしい。これは文化・生涯学習課ではなく、教育委員会が取り組むべき問題だと思う。

— 了 —